

## 課題管理実施報告書

報告日：2010年11月 5日

プログラム	アジア科学技術の戦略的推進:アジア科学技術コミュニティ形成戦略
課題名	The 16th CReS International Symposium on Climate Change Studies through Activities of SKYNET and Virtual Laboratory for Climate Diagnostics
実施日	2010年 10月 21 日(木) ~23日(土)
場所	ホテルゆがふいんおきなわ 〒905-0011 沖縄県名護市宮里453-1 TEL: 0980-53-0031 FAX: 0980-53-7193
形式	一般公開・シンポジウム・セミナー・講演会・ワークショップ・その他( ) 展示物(有) (機器・設備) パネル ビデオ上映 体験型 その他( )) 無
対象者	一般 学生(中学・高校・大学) (その他) (研究者)
来場者	人数: 38名、(内訳 研究者37名、事務員1名)
周知方法	新聞 雑誌 学会誌 メディア取材 プレスリリース (HP, メール発信) その他( )
実施者	○実施取り纏め者を記載 高村民雄(千葉大学環境リモートセンシング研究センター・教授) 久世宏明(千葉大学環境リモートセンシング研究センター・教授・センター長) 樋口篤志(千葉大学環境リモートセンシング研究センター・准教授)
内容	○実施内容を具体的に記載 ・雲、エアロゾル、降水シミュレーションの評価や同化手法に関する最新研究動向に関する招待講演 ・雲、エアロゾル、放射に関する地上観測ネットワークおよび衛星観測、数値モデルの活動や研究状況の発表と意見交換 ・アジア域におけるエアロゾルのインパクトや気候変化に及ぼす影響に関する研究発表と意見交換 ・SKYNETの観測ネットワークおよび将来計画に関する討議 ・辺戸岬に展開されている大気観測施設の視察及び観測に関する意見交換
効果、問題点、今後の展望と課題	○実施した効果を具体的に記載 ・雲、エアロゾル、降水に関する数値モデルやシミュレーションに関する最新研究動向を共有することができた。 ・当センターが推進している全球静止気象衛星データの収集、処理、高度化、公開に関する活動状況を、内外の研究者に周知できた。 ・4大学連携バーチャルラボラトリおよびSKYNETの活動成果の集約ができ、今後の研究方針に関する議論を進めることができた。 ・観測施設の視察を通じて、モニタリング観測の状況と継続の重要性を共有できた。  ○ 実施上の問題点を具体的に記載 ・発表件数が当初予定よりも多く、各発表に対する質疑や議論も活発であったため、スケジュールに余裕がなかった。 ・開催2カ月前より準備を進めていたにも関わらず、中国からの参加者数人の査証発

給が間に合わなかったため、発表者の変更があった。

- ・発表を行う研究者の参加がほとんどで、大学院生や一般聴講者を増やすことも課題となった。

○ 今後のコミュニティ形成に向けての展望と課題を具体的に記載

- ・バーチャルラボラトリの活動を通じた、エアロゾル-雲-降水過程に関する観測的研究の進展と、モデル・シミュレーションとの比較、検証を通じたさらなる精度向上に向けた研究動向が明らかとなった。
- ・当センターが公開を進めているデータ利用の促進による研究の深化と広がりが期待され、共同利用研究拠点として更に発展させることが重要であることが確認された。